

標準服見直しについて(案)

1. 見直しを検討する背景・目的

- 現在の標準服(詰襟・セーラー服)は、性別で着用が厳密に分かれている(現状)。
- 性的少数者(LGBTQ を含む)の生徒にとって、現在の標準服が心理的・身体的な負担となる場合がある。
- 実際に、生徒からの性の違和感等で相談・カミングアウトを受けた経験(アンケート)では、中学生で8.8%、高校生で10.9%の割合であった(生きづらさを測ったものではない)。
- 標準服に関する生徒・保護者からの相談や声があり(先日の選択制の説明会でもあり)、社会的にも、性自認に基づいた標準服を選択できる学校が増加している。
- 本校としても、生徒一人ひとりが安心して学校生活を送れる環境づくりの一環として検討する必要があると考える。

2. めざす方向性(基本的な考え方)

- 性別に関わらず選択できる標準服の導入(例:スラックス／スカートの選択制)
- 生徒の多様な価値観や自認を尊重する学校づくり
- 標準服に関する「強制」ではなく「選択」の自由を重視する

3. 標準服見直しによる期待される効果

- 自分の性自認に合った服装で過ごすことができ、生徒の安心感・自己肯定感の向上
- ハラスメントやいじめの防止(性別に関する偏見の緩和)
- 学校全体として多様性を受け入れる文化の醸成

4. 今後の検討プロセス案(例)

- 教職員内での意見交換(本日の会議以降)
- 生徒会・PTA・学校協議会などの関係者との意見交換
- 生徒・保護者へのアンケート実施(標準服に対する思いや要望)
- 地域や他校の先行事例の調査
- 業者との相談・試作などの検討
- 学校協議会などでの議論を経て方向性を決定

5. 留意点

- 急な変更ではなく、段階的で慎重な見直しを検討
- 標準服を着ない自由ではなく、「選択肢の幅を広げる」ことが目的である点を明確にする
- 教職員の LGBTQ や性自認についての理解と認識の向上